

教職課程学生の高校訪問

太田 眞 藤女子大学

はじめに

本論は、教職課程履修学生による高校訪問の意義を明らかにするものである。拙稿「実践的指導力の基礎を培うために－社会科系教育法の事例－」¹⁾で述べたように、教科指導力と生徒指導力を統合した力が学校において必要な実践的指導力であり、その力は日々の教職の仕事を通して初めて身に付くものである。そして、その実践的指導力の基礎を培うのが大学の教職課程の大きな役割であると考えられる。

教員の資質能力の総合的な向上方策について、中教審答申では教職に対する強い情熱、教育の専門家としての確かな力量、総合的な人間力を備えた魅力ある教員の確保、が重要だとしている²⁾。北海道教育委員会においても、魅力ある優れた教員を確保するために大学生などを対象に、教員志願者養成セミナーを開催している³⁾。

筆者が勤務する大学の教職課程履修学生の中学校や高等学校に対する認識は、それぞれの出身校の経験によるものである。さらに、出身校での教育実習が多いことから、ほとんどの学生は学校といえば母校しか知らないまま公立の中学校・高校の教員として採用されることになる。

そこで、採用までにできるだけ多くの経験をさせ、教職に対する意識を少しでも確かなものにして教員になってほしいとの思いから高校訪問を企画し、実践した。本論はその活動について、意図および内容、その総括を行うものである。

1. 高校訪問のねらい

(1) 講義「生徒指導」の概要と参加学生

筆者が担当する「生徒指導」は3年生が対象である。テキストは文部科学省が29年ぶりに改訂した『生徒指導提要』（2010年3月）を使用し、前期15コマ実施している。2011年度の場合、文学部がある北16条校舎では英語文化学科、日本語・日本文学科、文化総合学科の3学科併せて32名の学生が受講し、花川校舎にある人間生活学部では、家庭科教諭と栄養教諭をめざす35名が受講した。

講義では、毎回学生による教育に関するニュースとその感想・意見を発表させている。年度初めに、1コマ当たり2～3名の発表者を割り当てるので、前期中に一度は発表することになる。ここでは発表内容に関連させて、筆者がこれまで経験した学校の中に生起するさまざまな事例を示し、それについて学生に感想や意見を述べさせたり、書かせたりしている。

講義内容は、テキストの『生徒指導提要』の第5章から第7章を除くもので、シラバスに沿って実施している。なお、5章から7章は後期科目である「教育相談」で学ぶ内容としている。

(2) 生徒指導と学習指導の関連

『生徒指導提要』では、教科における生徒指導について次のように述べている。「生徒にとって、学校生活の中心は授業です。生徒一人一人に楽しくわかる授業を実感させることは教員に課せられた重要な責務です。ここに、教科における生徒指導の原点があります。生徒指導は教科指導を充実したものとして成立させるために重要な意義を持っています。⁴⁾」

また、教科指導のなかで生徒指導を充実させるためには、「①授業の場で児童生徒に居場所をつくる。②わかる授業を行い、主体的な学習態度を養う。③共に学び合うことの意義と大切さを実感させる。④言語活動を充実させ、言語力を育てる。⑤学ぶことの意義を理解させ、家庭での学習習慣を確立させる」の5つの観点から教員が指導力を一層発揮することが求められるとしている⁵⁾。

これらのことから、今回の学校訪問は、「生徒指導と学習指導」との関連を考えさせることをねらいとした。また、後に作成する学習指導案の中に生徒指導を具体的に表すことも今回の目標とした。

2. 実施までの経過

(1) 高校との連絡調整

2010年度末に、学生による学校訪問活動が可能かどうか、またどの程度の内容であれば実施できるかの協議を札幌東豊高校教頭である山崎誠氏と始めた。当方からは9月の訪問実施、内容として授業参観と研究協議、登校時指導の観察の3点を依頼したが、高校側は2011年度に新校長が着任するので、校長の判断によるとの回答であった。

新年度に入り、新校長平田和光氏から高校訪問の内諾を得た。また、上記の3点に加え、校長講話の実施と全校集会の様子も見学させていただけることになった。

一方、学内では2011年度中の高校訪問実施を教職課程委員会に諮り、了解をいただいた。また、学生の学外活動に関わる保険への加入状況も学生課に確認した。この時点での学生への告知は、次のとおりである。

- ①実施日は本学の創立記念日で休校日であるが、午前中に訪問活動は終了すること。
- ②参観内容は授業参観、研究協議などであること。
- ③訪問の際の服装はスーツ着用で、上靴を持参すること。

以上のような大まかな流れを記載したプリントを配布し、参加希望の確認をした。この時点で不参加の意思表示をしたのは、32名中3名であった。

北海道札幌東豊高等学校を訪問先と選定したのは、北海道教育委員会の「確かな学力を育む高校教育推進事業」に指定され、基礎学力の向上を図るための授業研究や生徒指導に力を入れていることが一番の理由である。また、教頭の山崎氏と筆者とは、民間の北海道高等学校教育経営研究会に所属し、研究例会の中で大学の教職課程に関する話題をもとに議論していたことなどから、高校訪問の意図を理解してもらえると考えたからである。

(2) 7月の教頭講話

高校訪問のオリエンテーションとして、学校紹介を兼ねた講話の実施を高校に依頼したところ、7月に教頭講話が実現した。事前に教頭に送付した「生徒指導」に関するおもな学生の質問事項は次のとおりである。

①実際の教育現場で、生徒指導で大切だと感じるのほどのようなことですか。また、生徒指導についての教員の校内研修は行われていますか。その内容はどのようなものですか。

②生徒指導を行う上で、保護者との連携ないしコミュニケーションをとることは不可欠ですが、高校生にもなると小中学校の頃とは違い、保護者と関わるのが少なくなってしまうと思うのですが、どのように保護者と意見を交わすのですか。

③学校全体さらには教職員全体で様々な情報を共有、積極的に交換・シェアすることが大切だと教わったのですが、具体的にどのような取組をなされているのかお聞きしたい。

④生徒指導を行う上で、教師が留意すべき点として「学校全体での生徒指導」の必要性があげられますが、実際の現場で行われる教師間の努力には、どのようなものがありますか。よろしければ具体的に教えてください。

7月27日の講話当日は、教頭には科目「生徒指導」の中で文学部教職課程履修学生32名を対象に70分間講話をしていただき、その後20分間質疑の時間をとった。講話の内容は、「学校案内」等による学校概要の説明のほか、学校評価自己評価資料を用いて学校課題にも言及していただいた。また、学生からの質問事項を読んで考えたこととして、①生徒指導でいま思うこと、②保護者との連携について、③「他人の話はよく聞け」、④「憧れた教員群像」の4点からお話をいただいた。

(3) 実施までの事前準備

実施月（9月）に入って、高校より公開授業をしてくださる国語科「国語総合」、英語科「OCI」、地歴科「日本史A」の3名の先生から、当日授業で使用するそれぞれの教科書のコピーと学習指導案が送付された。学習指導案は増刷し、他学科の学生にも配布した。さらに、授業参観後の研究協議のテーマについても検討した。

特に、文化総合学科の学生に対しては、筆者が担当する「公民科教育法」の中で送付された学習指導案について説明し、その後指導案を参考にして学生一人一人に指導案を作成させた。これは、当日参観する科目の学習内容と授業の流れを確認させるためである。

学生への最終案内は、講義時に次のような事項を記述したプリントを配布するとともに、最終参加者の決定を行った。参加希望者は、32名中29名であった。

- a. 持参するもの… 上靴、筆記用具（ノート等）、スケジュール表、学校案内、学習指導案、教頭講話レジメ（学校の状況、学校評価自己評価資料）
- b. 服装・頭髪… スーツ着用、華美でないこと。

- c. 時間厳守… 8時30分までに現地に到着、これ以降の参加は認めない。
- d. 教科における生徒指導… 生徒指導提要 (pp.23~25) を再度読んでおくこと。
- e. 授業参観後の研究協議

教科指導に関する事…学習指導の流れ、学習指導案の作成、評価の工夫等
 生徒指導に関する事…関心・意欲の持たせ方、学習のルール、生徒理解等
 学校全体での取組…生徒指導・教育相談体制、教科・学年会議の役割等

3. 実際の高校訪問

(1) 訪問の実際

9月28日の高校訪問当日は、各自公共交通機関で8時30分までに高校に集合することとした。表1のように、SHR開始時は8時45分であるが、学生には少し早めに集合させ、登校時の生徒の姿や先生方の登校指導の様子を見てほしかったからである。高校生の登校と一緒に、バスの中の様子を観察できた学生も多かった。職員玄関で持参した上靴に履き替え、視聴覚室において教頭よりオリエンテーションを受けた。この時間は10分ほどであったが、本日の流れが確認できた。

表1 高校訪問の日程

時 間	校内時間割	訪問学生の活動(内容)	活動場所	階	担 当 等
～ 8:45	登校	・登校時の生徒観察 ・職員玄関から入校 ・下足置場用意	視聴覚教室	2F	(玄関奥の廊下)
8:45～ 8:55	S H R	・オリエンテーション	視聴覚教室	2F	山崎誠教頭
9:00～ 9:50	1校時 授業	・授業参観			
		国語(国語Ⅰ)	1の4	4F	廣瀬正幸教諭
		地歴(日本史A)	2の8	3F	幡本将典教諭
		英語(OCⅠ)	1の5	4F	山田高太郎教諭
10:00～10:50	2校時 授業	・授業(学習指導)についての研究協議			
		国語(国語Ⅰ)	会議室A	1F	廣瀬正幸教諭ほか
		地歴(日本史A)	面談室	2F	幡本将典教諭ほか
		英語(OCⅠ)	会議室B	1F	山田高太郎教諭ほか
11:00～11:50	3校時 前期終業式	・入場、整列指導観察 ・校長式辞等の聴講	体育館	1F	山崎誠教頭
12:00～12:30	4校時 L H R	・校長講話 ・オリエンテーション	会議室	1F	平田和光校長 山崎誠教頭
12:30～	(訪問学生下校)	・東豊高校前12:47分発バスに乗車			

(札幌東豊高校 山崎誠教頭作成)

(2) 授業参観の状況

1時間目は、国語、地歴、英語の3教室に分かれて授業を参観した。学生達は事前に学習指導案を見て、学習内容と授業の流れを大まかに把握していたので、授業者の動きや教室の生徒の反応等にも目を配るなど真剣に参観し、有効な1時間となった。学生のおもな感想は次のとおりである。

①久しぶりに高校の授業を体験し懐かしく思いながらも、生徒とは異なる立場での参加に新鮮さも感じました。現役の先生は、声の抑揚、授業の展開の仕方、机間指導のタイミングや生徒とのやり取り、写真を使い生徒の注意を引くなど、やはりさすがだなと思いました。集中している生徒やそうでない生徒の様子も見る事ができてよかったです。

②ありのままの東豊高校の生徒を見られてよかったです。授業を客観視してみると、教師の思惑と生徒の反応が直に感じられておもしろかった。ノートに印を押すという場面を見て、教科における生徒指導の具体例だと実感できた。

③参考になりました。資料(副教材)の提示にも、しっかりとした「ねらい」があること、そのねらいが出来上がったのは、これまでの試行錯誤の結果であることを知れたのがよかったです。教員も生徒も成長していくもの、と励まされた気持ちになりました。

④指導案からは読み取ることができない、細かな気配りや生徒の注目を集めるテクニックなどを見させていただくことができてよかったです。また、生徒も緊張してしまうかと思いきや、ほぼ自然体で授業を受けてくれたのでよかったですと思います。

(3) 研究協議の状況

2時間目は授業についての研究協議で、授業担当者のほかに複数の教科の先生に参加していただいた。訪問前に高校側に送付していた学生の質問事項を中心に協議し、どの教科も時間が足りなくなるほど熱心に行われた。学生が事前に考えた研究協議のテーマは下記のとおりである。学生たちがどのような意気込みを持って学校訪問に臨んだのか、その一端を理解していただけるものと思う。

ここでは、文化総合学科の学生のおもなものを紹介する。

[学習指導について]

①事前に配布された指導案では、プリントなどを使わず板書形式で授業を進めるように感じたのですが、生徒の興味や関心を引く工夫として実践されている例をぜひ教えてください。

②評価の観点では観点のすべてをあげていますが、時間配分との関係はありますか。

③ノートの取り方の指導はどのようにされていますか、指導例を教えてください。また、そのねらいについてもご指導ください。

④先生の説明・講義が主体で、生徒が受動的になりがちな社会科のなかで、生徒を授業に引きこませる工夫はありますか。

⑤学習指導案の中では、資料を提示する場面が多くあるように思うのですが、何かねらいはありますか。

⑥生徒の授業の理解度を把握するために、どのような手立てをとられていますか。

[生徒指導について]

①生徒の学習習慣の確立のために心がけていることにどのようなことがありますか。

②教科指導のなかで、学習に対してやる気を見せない生徒に対してどのように対応されていますか。

③授業中の生徒とのコミュニケーションの取り方について、留意していることはありますか。

④授業をするにあたり、対象生徒となる2年8組だからこそ注意しよう気をつけて臨もうと思われていることはありますか。

⑤授業中、クラスの生徒をまとめていくために、一人一人の生徒に対してどのように心を配っているのですか。

地歴科の研究協議は、上記質問項目について授業担当教諭からの解説が中心であった。研究協議にかかる文化総合学科の学生のおもな感想は次のとおりである。

①模擬授業で疑問に思っていた点などに答えていただきスッキリしました。ノートに押すスタンプの意図、机間巡視の意義を教えてくださいました。また、教材研究の仕方や役立つ本などについて知ることができたので今後の参考にしたいです。

②日本史の幡本先生に丁寧な解説、質問に答えていただき、時間が足りないと感じるほどだった。現職の先生も、悩んで試行錯誤しながら授業をつくっているのだと実感できた。

③現場にいる先生となかなかお話しすることができないので、模擬授業の勉強になった。教材研究の仕方や生徒とのコミュニケーションの取り方などのお話ができよかった。しかし、時間が短くあまり踏み込んだお話ができず残念だった。

④使用なさっている文献などを持ってきていただいて、丁寧に対応していただきました。また、現場で働いている先生方も様々なことで悩み、日々その解決法を模索していらっしゃる事がわかり、とても安心しました。もっとたくさんお話ししたかったです。

(4) 全体の状況

高校訪問終了後、参加学生には校長先生宛に自筆でお礼の手紙を出させた。また、10月の後期科目「教育相談」の時間を利用して、学生に対し感想文の記述とアンケートを実施した。アンケートの内容は、登校時の観察、オリエンテーション、授業参観、研究協議、前期終業式（入場・整列、陸上競技会表彰、生徒会認証式、離任式、講話）及び校長講話のそれぞれの項目について5段階評価するもので、コメント記入欄も設けた。また、その他として疑問に思ったところなどを書く欄も設けた。表2は、アン

ケート結果を学科ごとに表したものである。

この結果については、高校側に学生個々の感想文とあわせて送付している。なお、今回の高校訪問に参加した学生は、英語文化学科 7 名、日本語・日本文学科 12 名、文化総合学科 10 名の計 29 名で、不参加者は 3 名であった。

表 2 高校訪問後のアンケート結果

学科(回答数) 項目	英語文化学科 (7名)	日本語・日本文学科 (12名)	文化総合学科 (9名)	平均 (計28名)
(1)登校時観察	4.2	4.0	4.0	4.00
(2)オリエンテーション	4.4	4.5	4.3	4.31
(3)授業参観	4.6	4.7	4.8	4.77
(4)研究協議	4.3	4.3	4.4	4.41
(5)前期終業式	4.5	4.1	4.2	4.27
(6)校長講話	4.2	4.8	4.7	4.59

(5…たいへんよかった、4…よかった、3…ふつう、2…あまりよくなかった、1…よくなかった)

特に、文化総合学科の学生に対しては高校訪問の事後指導として、「地理歴史科教育法」の講義のなかで再度学習指導案を作成するよう指導し、期末に提出させた。参観前と後の指導案を比べてみると、高校訪問後の指導案には、生徒に関わる教員の動きが多く現れていることがわかった。

おわりに

以下の学生の感想にも述べられているように、採用までにできるだけ多くの経験をさせ、教職に対する意識を少しでも確かなものにして教員になってほしいという所期の目的はおおむね達成されたと考える。また、生徒指導と学習指導に関連性があり、両方の力が教員には必要であることを授業参観や研究協議、校長講話等から感じ取ってくれたものと思う。

○母校以外の様子を見させていただくことができ、大変勉強になりました。また、教頭先生のお話を先に聞く機会を設けていただいていたので、安心して学校に行くことができました。

○めったにできることではない体験だったので、参加してよかったと思いました。ほとんどの教職の学生が、大学に入学してから教育実習までに生の授業を見学するようなことはないと思います。

○大変貴重な経験となりました。今までは学校というもののイメージが進学校のようなものしか自分の中にはありませんでした。実際の学校の様子を見ることができ、視野がはっきり広がったと思います。

○校長先生の個性を大事にというお話から、様々な教員が必要で、よい教員を決め

るのは自分自身や他の教員ではなく、生徒であることを改めて考えさせられました。

今後の課題としては、この高校訪問実習が継続できるかどうかである。一過性のイベントではなく、毎年継続し改善を加えることができれば、学生にとって有効なものとなる。次年度も実施できるかどうかは相手先の高校長の判断による。幸い、平田和光校長からは2012年度も実施していただけるとお話をいただいているので、実習訪問のねらいを明確にするとともに、実施時期や内容等を一層吟味し、お願いしたいと考えている。

また、初めての試みであったため、学生からは「高校生と挨拶を交わすことはできたが、少し話をしてみたかった」「協議の時間をもう少し多くしてほしい」などの意見があり、個々の学生の期待には十分に答えられなかった面もあるので、次年度は改善を加えたい⁶⁾。

一方、札幌東豊高校の教頭からは、「学校を公開して、対応した教職員一同大いに刺激を受けた」「担当した先生方も大変勉強になった」等と聞いている。

当日は学園創立記念日で休業日であったにもかかわらず、ほとんどの学生が参加している。これは、事前に実施した山崎誠教頭によるオリエンテーションが巧みであったことと、参加学生たちの純粋な教職に対する意欲の現れであると考えられる。

謝辞

このたび、学生の訪問を引き受けてくださった札幌東豊高校の平田和光校長先生にはお忙しいところ、校長講話をはじめ1,000名もの生徒が集まる全校集会までも参観させていただき、心より感謝申し上げます。学生に対して、登校指導から授業そして全校集会までを参観させていただけることは希有なことである。平田校長先生の教職志望学生への熱い思いが伝わってきた。

また、事前に学習指導案を送付いただくとともに、授業参観の場を提供していただいた廣瀬正幸教諭、幡本将典教諭、山田高太朗教諭に厚くお礼申し上げます。さらに、協議の場では担当の3先生に加えて各教科の先生にも出席いただいた。教科全体で学生の訪問に対応してくださり、公開授業に取り組んでいただいていることを実感した。特に、学習指導案を事前に送付していただいたことは、学生に対して高校訪問への深い動機付けと緊張感を与えていただいた。

何とんでも今回の高校訪問では、札幌東豊高校の校長先生はじめ教職員及び生徒の皆さまに、こころよく対応していただいたことが学生諸君のかけがえのない体験になったと思う。

最後に、本報告書を作成するに当たり、筆者の勤務する大学の大学の大矢一人教職課程委員会委員長の助言をいただいた。このことに感謝申し上げます。

本稿は『北海道私立大学・短期大学教職課程研究連絡協議会会報 (No. 32, 2013. 3)』に掲載したものを一部編集し直したものである。平成25年度の高校訪問についても札

幌東豊高校と協議し、8月29日の実施を計画している。

注

- 1) 拙稿「実践的指導力の基礎を培うために－社会科系教育法の事例－」『北海道私立大学・短期大学教職課程研究連絡協議会会報』No. 32, 2013. 3。
- 2) 中教審答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」（2012年8月28日）。
- 3) 北海道教育委員会「平成24年度北海道教員志願者養成セミナー」。
<http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ksi/yoseiseminar.htm>
- 4) 文部科学省『生徒指導提要』2010年3月, p. 23。
- 5) 同上, p. 23～p. 25。
- 6) 2012年度の高校訪問実習は、昨年度の国語、英語、地歴公民科に家庭科を加え4科目で、9月6日(木)に実施した。しかし、夏季休業中であったことと、文学部の集中講義のため、参加できない学生が多いことなどから、全員で18名の参加であった。ちなみにその内訳は、国語科8名、英語科2名、地歴・公民科3名、家庭科5名である。各教科とも参加者が少なかったため、協議では発言する機会が多くてよかったという感想があった。